

当面の病床機能転換の予定等



和歌山県福祉保健部健康局医務課

当面の病床機能転換等の一覧（和歌山保健医療圏構想区域）

No.	医療機関名	将来目指す医療機能の方向性 (令和元年11月29日付け医第11290001号 「病床機能の現状及び今後のあり方等 に関するアンケート」結果より)		転換等の内容	転換等の時期
1	児玉病院	B	地域密着型協力病院	転換 回復期病床のうち、地域一般入院料2の8床を地域包括ケア病 床に転換 ＜転換後の機能別病床数＞ 回復期44床	令和2年12月頃
2	稲田病院	F	ケアミックス型	転換 急性期16床のうち、8床を回復期に転換 ＜転換後の機能別病床数＞ 急性期8床、回復期22床、慢性期42床	令和2年8月
3	綿貫第二 クリニック	A	地域包括ケアモデル	廃止 急性期19床のうち、5床を廃止 通所リハビリを拡張	令和2年8月
4	こうざき 産婦人科	B	専門医療提供モデル	廃止 急性期14床のうち、11床を廃止	令和2年6月
5	青木整形外科	D	いずれにも該当しない	廃止 19床（休床中）のうち、8床を廃止	令和2年11月頃
(報 告)	瀬藤病院	D	(主として)介護医療院を 有する病院	転換 介護療養病床から介護医療院に転換60床 ＜転換後の機能別病床数＞ 慢性期20床	令和2年2月

議題1 和歌山保健医療圏構想区域における当面の病床機能転換等の予定について

本年4月から6月にかけて実施した病床機能転換等に係る意向調査にご協力いただき、ありがとうございました。

ご報告いただいた結果、和歌山保健医療圏における当面の病床機能転換等の予定は上記のとおりです。（一部、転換等済のものを含む。）

各医療機関とも、それぞれが将来目指す方向性、また和歌山保健医療圏における地域医療構想の方向性とも概ね合致しているものと考えられますので、
上記5案件を調整会議として「了解する」ことについて採決を実施します。別添「書面決議書」にご記入の上、ご提出ください。（9月16日〆切）

※瀬藤病院は介護の機能転換であるが、情報共有として今回報告。

【資料 1】病床機能の転換等について

医療機関名

医療法人博文会 児玉病院

現在の病床機能【概要】 <令和2年6月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率(注)
高度急性期				
急性期				
回復期	1	地域一般入院料 2	44	83.9
慢性期				
計	1	—	44	—
(備考)				

(注) 平成30年7月1日～令和元年6月30日までの病床稼働率

現在の病床機能【詳細】
<p>現在の病床機能は、地域一般入院料 2 で 44 床となっております。</p> <p>当院の基本姿勢として、CKD・透析医療を専門とし、それに付随する疾患への治療が中心です。</p> <p>腎疾患に関わる多方面からの治療において、医療を提供させていただいております。</p> <p>うち、入院医療については透析の有無に関わらず、高度急性期・急性期からの転院患者、在宅療養患者の受け皿として、患者が在宅へ円滑に移行出来るように、また、在宅での療養が困難となった場合の入院施設として、人材確保・環境整備に取り組んでおります。</p>

転換の予定 <令和2年12月以降>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	
高度急性期				
急性期				
回復期	1	地域一般入院料 2	36	
		地ケア病床	8	
慢性期				
計	1	—	44	
(転換の概要)				
地域一般入院料 2 の 44 床のうち 8 床を地ケア病床に転換				

転換後における病院のあり方
<p>転換後における病院のあり方は基本的には変わりありません。</p> <p>地域一般入院料 2 の 44 床のうち 8 床を、地ケア病床に転換を予定しております。</p> <p>診療報酬の改定や動向に鑑み、以前より実施してきた高度急性期・急性期からの転院の受入れや地域在宅療養患者の入院にはじまり、リハビリテーションの強化や在宅医療の取組み等を、このたび表出した形で、一部の病床を地ケア病床に変換する予定です。</p> <p>基本的の実施する医療の内容や方向性は、従前と変わりありません。</p> <p>また地域密着型協力病院への指定について、我々の出来る範囲での在宅医療への貢献は、当該指定の有無に関わらず継続的に実践する事を前提に、今後申請する予定としております。</p>
<p><地域密着型協力病院指定申請の予定の有無等></p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 指定済み </p>

【資料１】病床機能の転換等について

医療機関名

稲田病院

現在の病床機能【概要】 ＜令和２年５月現在＞				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率(注)
高度急性期				
急性期	1	急性期一般入院料 6	16	84.2%
回復期		地域包括ケア入院医療管理料 2	14	97.6%
慢性期	1	療養病棟入院料 1	42	96.2%
計		—	72	—
(備考)				

(注) 平成30年7月1日～令和元年6月30日までの病床稼働率

現在の病床機能【詳細】				
(入院患者の現況)				
28年度	急性期一般入院料6	在院患者数	5,061名	稼働率86.6%
29年度	急性期一般入院料6	在院患者数	5,109名	稼働率87.4%
30年度	急性期一般入院料6	在院患者数	4,556名	稼働率78.0%
31年度	急性期一般入院料6	在院患者数	4,930名	稼働率84.0%
28年度	地域包括ケア入院医療管理料2	在院患者数	4,759名	稼働率93.1%
29年度	地域包括ケア入院医療管理料2	在院患者数	5,065名	稼働率99.1%
30年度	地域包括ケア入院医療管理料2	在院患者数	4,925名	稼働率96.3%
31年度	地域包括ケア入院医療管理料2	在院患者数	5,022名	稼働率98.0%
28年度	療養病棟入院料1	在院患者数	14,925名	稼働率93.1%
29年度	療養病棟入院料1	在院患者数	14,772名	稼働率99.1%
30年度	療養病棟入院料1	在院患者数	14,493名	稼働率96.3%
31年度	療養病棟入院料1	在院患者数	14,832名	稼働率98.0%
在宅療養支援病院の届け出病院であり、地域密着型協力病院の指定も受けている。				

転換の予定 ＜令和２年８月以降＞				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	
高度急性期				
急性期	1	急性期一般入院料 6	8	
回復期		地域包括ケア入院医療管理料 2	22	
慢性期	1	療養病棟入院料 1	42	
介護医療院				
計	2	—	72	
(転換の概要)				
急性期一般病床 8 床を回復期病床に転換				

転換後における病院のあり方	
(一般病床から回復期病床への移行)	
<p>当院では現在、高度急性期・急性期病院からの紹介患者の増加など、地域医療としてのポストアキュート機能の充実が求められている。</p> <p>そこで、急性期の一般入院病床を 16 床から 8 床に縮小し、回復期の地域包括ケア入院病床を 14 床から 8 床増やし 22 床とする。</p> <p>治療・リハビリテーション機能の一層の充実を図ることが、地域医療における当院の役割であると考えられる。</p>	
＜地域密着型協力病院指定申請の予定の有無等＞	
<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 指定済み	

【資料１】病床機能の転換等について

医療機関名

医療法人杏樹会 綿貫第二クリニック

現在の病床機能【概要】 <令和２年７月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率(注)
高度急性期				
急性期		有床診療所入院基本料 1	19	45.0%
回復期				
慢性期				
計		—	19	—
(備考)				

(注) 平成30年7月1日～令和元年6月30日までの病床稼働率

現在の病床機能【詳細】
<p>ペインクリニックとしての専門的治療を中心とし、内科医による投薬、全身管理を行っています。</p> <p>19床の病床には、ショートステイでの病床（3床）もあり、介護保険による利用も受け入れ可能です。</p> <p>当診療所2階部分では、通所リハビリテーションも兼ね備え、医療と介護の両面で地域に密着した機能もあります。</p>

転換・廃止等の予定					＜令和２年８月以降＞	
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料		病床数		
高度急性期						
急性期		有床診療所入院基本料 1		14		
回復期						
慢性期						
介護医療院						
計		—		14		
(転換の概要)						
19床中、5床を廃止。						

転換・廃止後における診療所のあり方
<p>当診療所の2階で介護施設「綿貫デイケアセンター」（通所リハビリテーション及び介護予防通所リハビリテーション）を開業しており、地域住民を中心に、医療と連携したリハビリを提供しています。</p> <p>今回、急性期病床5床を廃止したうえで当該デイケアセンターを拡張し、また、リハビリ設備の充実を図ることで、利用者の満足度を高めるとともに、充実した医療・介護で地域社会に貢献していける病院でありたいと思います。</p>

【資料 1】病床機能の転換等について

医療機関名 医療法人アイ・ウィル こうざき産婦人科

現在の病床機能【概要】		＜令和 2 年 5 月現在＞		
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率(注)
高度急性期				
急性期		有床診療所入院基本料	14	
回復期				
慢性期				
計		—	14	—
(備考) 産科の分娩のため、1 4 床				

(注) 平成30年7月1日～令和元年6月30日までの病床稼働率

現在の病床機能【詳細】
分娩（帝王切開を含む。）のための病床。

転換・廃止等の予定		＜令和 2 年 6 月以降＞	
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数
高度急性期			
急性期		有床診療所入院基本料	3
回復期			
慢性期			
介護医療院			
計		—	3
(転換の概要) 1 4 床中、1 1 床を廃止。			

転換・廃止後における診療所のあり方
外来のみとすることも含めて保健所とも検討してきた結果、1 1 床を廃止し、3 室 3 床で維持することとなった。

【資料 1】病床機能の転換等について

医療機関名

医療法人 青木整形外科

現在の病床機能【概要】 <令和2年8月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率(注)
高度急性期				
急性期				
回復期				
慢性期				
計		—	19	—
(備考) 休床中				

(注) 平成30年7月1日～令和元年6月30日までの病床稼働率

現在の病床機能【詳細】
休床中。

転換・廃止等の予定					＜令和2年11月以降＞	
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料		病床数		
高度急性期						
急性期						
回復期						
慢性期						
介護医療院						
計		—		11		
(転換の概要)						
19床中、8床を廃止						

転換・廃止後における診療所のあり方
<ul style="list-style-type: none"> 稼働していない病床を今後どうするか検討した結果、2室8床を廃止し、インフルエンザ等の感染症患者用のスペースや、災害時のための備蓄倉庫として活用していくこととしました。 残る病床の今後の方向性は、現時点では未定です。 非稼働となっている病室を上記のように改修し活用しつつ、今後も地域で求められる医療を着実に提供していきたいと考えます。